

独思録：「入試問題ネット投稿」(3/6)

今泉 蓮

京都大など4大学の入試問題が試験時間中にインターネットの質問サイト「ヤフー知恵袋」に投稿された問題で、京大の入試での偽計業務妨害容疑で仙台市の男子予備校生が逮捕された。京都府警の調べが進むにつれ、京大への批判、予備校生への同情が京大にメールで寄せられている。試験でカンニング、これは昔から「石川や 浜の真砂は 尽きるとも 世に盗人の 種は尽きまじ」ではないが、「受験生 浜の真砂は 尽きるとも 世にカンニングの 種は尽きまじ」と学生でカンニングの経験がない者はほとんどいない。「カンニングで逮捕はやりすぎ」という意見はもっともでもある。

確かに Wikipedia に載せられているカンニング手口、携帯電話を除く他の手口は古典的と言っても良く、不正な手段により試験問題の出題内容に関する情報を得る以外は退学などの私的懲罰はあるが、逮捕 起訴 有罪になった話は聞いたことはない。

記憶しきれない公式や用語など、テストに出題される可能性があるものをメモにし、筆箱など手元に忍ばせ、試験中に参照する

机の上や体(手のひら、太腿など)に直接書き込む

他人の解答をのぞき見る

友人など、他の受験者からメモを回してもらう

机をコツコツと叩くなどして、友達に暗号で教えてもらう

不正な手段により試験問題の出題内容に関する情報を得る

携帯電話を持ち込んで電子メールや掲示板で教えてもらう

今回の逮捕、大学・警察の外部を含む複数による犯罪との見込みにマスコミが飛びつき、全てが引っ込みつかなくなっていたからかも知れない。

手口が明らかになるにつれ『入試不合格』で済むことであったとも考えられる。冷静に見ればインターネットという最新のツールを使っているが、結局は、古典的なカンニングと言える。

夏目漱石が「私の経過した学生時代」で「落第して見ると誰も同じこと、さすがに可(い)い気持はせぬ。それからは前と違って、真面目(まじめ)に勉強もするようになった。」「教場へ出ていても前と異って、ただ非常に注意して教師のいわれるのを聞くようにしたと云う位のものであった。」と言っているように、受験生は普段からの心がけが足りていなかったようである。受験生も、あの文豪と同じように今後は真面目に勉強することだ。



< 参照 > 夏目漱石「私の経過した学生時代」